

考えるボクシングで狙う**金** 専修Jスポ

関連記事2面

原田周大

パリ16年ぶりの快挙 五輪内定!!

第19回アジア競技大会
(9月23日～10月8日 中国・杭州)

五輪出場を懸けた準決勝に臨む原田

写真：森田直樹 / アフロスポーツ

専修ジャーナリズムスポーツ

2023年12月13日(水)

専修大学ジャーナリズム学科 プロジェクト B 発行
編集長：竹田一爽

編集部員：稲葉桃子、井上源太、宇治橋青葉、小倉ひなた、角田温音、小山明香、瀧沢悠衣、豊田琴乃、西原和哉、林壮人、早瀬晴、堀内大志、松岡祐希、山田風香、山野井俊輔

ボクシング部の原田周大(法4・豊国学園)が第19回アジア競技大会57kg級で銀メダルを獲得。同時に来行われるパリ五輪の出場権を掴んだ。専修ボクシング部の五輪出場は16年ぶりの快挙となった。

悲願達成

原田は「流れが来ていた」と大会を振り返る。初戦を5対0の判定勝ちに収めると、その後も快進撃を続けてパリ五輪出場を懸けた準決勝へ進出する。準決勝の相手はパンチの正確性に定評があるタイのジュン・トロン選手。1ラウンド目は相手に押される展開に、それでも勝利が求められる2ラウンド目の場面で「勝つても負けてもどうでもいい。楽しもう」と原田は吹っ切れた。すると、相手のパンチに押し返して、次第にベ



写真：森田直樹 / アフロスポーツ

世界を体感

翌日に行われた決勝では、ウズベキスタンのハロコフ選手と対戦。世界王者を相手に健闘するも、悔しい2ラウンドノックアウト負けを喫した。原田は「決勝で五輪金メダル候補と言われる相手と手合わせして、どれだけ差があるか。どれだけかわかった」と話し、「決勝ではやられてしまったが、それは五輪でかえすというところで頑張る」と意気込んだ。

金メダルへ

大会後はパリ五輪に向けて練習に励む。厳しい練習を続ける中、「やっつけていく」と話す原田。それでも、「今日の自分には勝つために打ちながら日々、妥協せずに、五輪でメダルを獲得したい。それくらいは請け負わなければならない」と気を引き締める。

もろろんパリで目指すのは金色のメダルだ。相手の動きを冷静に分析しながら「考える」ボクシングの頂点を見据える。(竹田一爽)

スポーツの**“チカラ”**を支援！ 専修大学スポーツ・サポーターズクラブ

新入会員募集中! ※入会にはSSCオリジナルTシャツを進呈いたします。

主な活動内容
・ファンと一体! 応援企画立案、SSC会員への案内
・優秀な成績を収めた体育会並びに選手を表彰
・支援金の交付を通じ、専大スポーツをサポート
・ITメディアを活用し、専大スポーツの輪を拡大中

■年会費(一口)・学生会員 1,000円・一般会員 5,000円

メールはこちらから mail@senshu-supporters.com

真の実力発揮へ 応援の専修

SENSHU Univ. S.S.C
EST.2013
SPORTS SUPPORTERS CLUB

専大健児にエールを送ろう!

事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-8-3
専修大学8号館1階 今村記念法律事務所内

ホームページ senshu-supporters.com

新幹事大募集! SSCを持続させるために新世代の幹事を募集します! まずは幹事会で意見交換をしませんか? QRコードから、メールでご連絡ください。

(レイアウト竹田)

原田周大



『左を制するものは世界を制す』

パリへのあゆみ Road to Paris

| | | |
|-------|-------------|---------|
| 2021年 | 全日本ボクシング選手権 | バンタム級優勝 |
| 2022年 | 全日本ボクシング選手権 | フェザー級優勝 |

| 第19回アジア競技大会(中国・杭州) | | |
|--------------------|-------|------------------------|
| 1回戦 | 5-0〇 | ジヤドアリ・マジュラシ(サウジアラビア) |
| 2回戦 | 4-1〇 | ガントゥムル・ルンダ(モンゴル) |
| 準々決勝 | 5-0〇 | モハメド・サリム・ホセイン(バングラデシュ) |
| 準決勝 | 3-2〇 | ルジャクラン・ジュントロン(タイ) |
| 決勝 | 2回KO● | アブドゥマリク・ハロコフ(ウズベキスタン) |

きっかけ

原田がボクシングに出会ったきっかけは中学1年生の頃。これまでサッカーに熱中していた原田だったが、進学した中学校にはサッカー部が無かったため兄が通っていた地元ボクシングジムに見学へ行くことに。しかし、最初は基礎練習ばかりで「あまり楽しくなかった」と話します。それでも、「諦めるのはダメ」という一心からボクシングを継続すると、初めてこのリングでは今まで体感したことのない楽しさを味わい、徐々にのめり込んでいく。

本気のボクシング

遊びとしてボクシングをしてきた中学時代とは打って変わってきた高校では「本気のボクシング」を取り組む。今では原田の代名詞となった左ジャブも高校の先輩である川谷剛史さんに影響を受け、この頃に磨き始めた。さらに、ボクシングスタイルも接近戦を好むファイタータイプから相手と距離を置きながら頭を使っている変化。自分の練習や試合の動画を見返しながら徹底的に自身を分析して腕を磨くと、国体では準優勝を成し遂げた。

その後、国体で優勝できなかった悔しさを胸に専大へ入学するも、突如としてコロナ禍に見舞われてしまう。コロナによって制限された寮生活が続く、原田は「このままでいいのか」と悩む。「何かしよう」と必死に同級生の部員らを説得し、自主的に練習を行って技術を身に付けた。そうした地道な努力が実を結び、2年時には全日本選手権のバンタム級で優勝。昨年は五輪基準を目指すために階級を上げると、フェザー級でも見事に優勝をつかんだ。

海外遠征へ

しかし、今年5月、満を持して臨んだ世界選手権でまさかの1回戦負けを喫し、「海外で勝てない」と感じた原田。どうしたら勝てるのかと悩む中、ライトミドル級の岡澤セオン選手に誘われ、その答えを探しにウズベキスタンとカザフスタンへ向かった。そこで世界1位とも言われるウズベキスタンの選手達と対戦し、様々な秘けつを学んだ。その後はイタリアに渡り、長年の目標であったオリンピック出場が懸かったアジア競技大会に備えた。

「人生変えてやろう」

「人生変えてやろう」と強い決意で挑んだアジア大会。初戦から順調に勝ち進むと、「勝てば五輪」という準決勝ではタイのジュントロン選手と対戦する。持ち前のリングを幅広く使うボクシングでリズムをつかむと、3対2の判定勝ちを収めて悲願のパリ五輪出場権を獲得。アマチュアボクシングの最高峰へ挑む権利を得た原田はアジア大会での金メダルを目指して決勝へ。だが、そこに立ちまはったのが世界チャンピオンであるウズベキスタンのハロコフ選手だった。決勝は苦しい展開が続く、ノックアウト負け。惜しくも準優勝で大会を終えた。

「五輪で勝ちたい」

アジア大会決勝で敗れた際に左眼窩底骨折を負った原田。世界王者から強烈なパンチを食らったあと、「相手が4人に見えた」と言う。帰国後は怪我の治療に専念し、現在は復帰に向けて練習を積んでいる。アジア2位の銀メダルに終わり、「五輪(出場を決めた嬉しさ)より(アジア大会決勝で)負けた気持ちが大変」。五輪で勝ちたいと続けて口にした。専大ボクシング部からの五輪出場は北京大会の川内将嗣さん(平20商卒)以来の快挙。数多くのボクサーを輩出する伝統ある部だけに「少しプレッシャーもある。そこに恥じないよう」と語る。

今後の展望

今年、合宿で訪れたウズベキスタンの街では盛んにボクシングが行われており、原田は「感銘を受けた」と話す。そうした光景を「日本でも」とボクシングの発展に貢献したいという想いを明かした。アマチュアボクシングの魅力については「3分3ラウンドの短い時間にギョッと詰まってくる。プロボクシングほど派手さはないが、スピードの現防が魅力」と熱心に語った。現時点ではプロへの転向は考えておらず、「海外へ行ってコーチングを学ばない」と今後の展望を笑顔で話した。

(竹田 爽)



専大のボクシング場で練習に励む原田

専修大学 学生寮のご案内

朝・夕2食付 手作りの料理

寮長寮母が住込みでサポート

家具付き プライベート居室

様々なイベントを企画開催

よい朝のために、入寮お問い合わせ・お申し込み・管理運営

共立メンテナンス 学生寮事務局

0120-88-1030



代表活動を終えて大学でも活躍した甲斐

W杯で成長を実感！ パリ五輪出場を目指す

【大学生生活で心がけていること】
「自分でやるべきことをしっかり行っている。部活と勉強の両立は大変。しかし、先生方がたくさん協力してくださっている。なので、たくさんの人に支えられていることに感謝をしたい。」

【リーグ戦を終えて】
「まずは全カレで一戦一戦大事にしていきたい。結果を残したい。オリンピックのメンバー選考は激しい争いになるため、しっかり選ばれるように努力していきたい。」

【普段努力していること】
「練習時間が短いため、その短時間で集中してプレーをしている。集中力を切らさないために短時間で終わらせて自主練習もあまりしない。短い時間でどれだけ集中してプレーをできるかが大切。」

【プレー中に考えていること】
「ボレーボールは流れを左右するスポーツなので、序盤、中盤、終盤の大事な場面です。序盤は1本決められるように意識している。チームの雰囲気が悪い時には自分の決める1本で雰囲気作りを意識している。」

【憧れの選手】
「石川祐希選手。小学生の頃からテレビでプレーを見ていて、大変憧れの選手。自身と石川選手を比較して、流れが悪い時や1本が取れないときにチームを鼓舞したり、絶対に欲しい1点を必ず取りきたいという面をすごく尊敬している。」

【全日本インカレの目標】
「ベスト4以上を目指し、最終的には優勝して4年生が笑って引退できるようにしたい。自分の持っている力を全て出し切りチームの勝利に貢献したい。」

(堀内 大志)

結果速報
11月29日(水) 全カレ2回戦。筑波大学を相手に、フルセットにもつれ込む接戦となるも3対2で惜敗した。

龍神 NIPPON

バレーボール日本代表

パリ五輪出場権獲得に貢献

甲斐優斗



専大スポーツ編集部

Twitter @sensuponow

Instagram sensuponow

生田キャンパスから1番近くて便利な教習所

向ヶ丘自動車学校

普通自動車

大型自動二輪車

普通自動二輪車

7分 オンライン学科教習スタート

専修大学入口よりスクールバス運行中

お申し込み・お問い合わせは専修大学8号館 購買会まで

写真提供：専大スポーツ編集部
主持の赤嶺有奎(文4・豊見城)



練習風景は
こちらから



燃える!! インカレに 男・女バスケットボール部

8月末から約2か月半にわたり開催された第99回関東大学バスケットボールリーグ戦。前回大会を2位で終えた専大男子バスケットボール部またの名をS O R E R S (ソアーズ) はリベンジに燃える。
今大会は前半が総当たり戦。結果次第で後半は上位チームと下位チームに分かれてゲームが行われる。大会前半は思うように勝ち星を掴めず、14チーム中5位で折り返し、少々危なげに上位リーグへ進出した。大会期間が長く、怪我人の続出やチームのモチベーションに波ができてしまし、チームの状態は、およそ最高とは言えず苦しい期間も長かった。
しかし後半、4年生がチームを引っ張り、上位チームの強豪校相手に4勝2敗の好成績を残した。最終結果は13勝6敗で2位。2年連続の準優勝となった。選手たちは早速気持ちを切り替えて、約1か月後に開催される全国大会(通称・インカレ)を見据えている。
1年間の集大成となるインカレには、4年生のみならず部員全員の勝ちたいという気持ちもこもる。
昨年ベスト8の結果を飛び越えて、今年こそ優勝を掴めるか。(角田温音)

近藤萌主将



写真：本人提供

インカレを目前にした女子バスケットボール部を直撃。この日は念入りなミーティングが行われた。
主将の近藤萌選手(文4・湯沢翔北)は、7位で終了したリーグ戦を振り返る。「1巡目は、やらなければいけないことを全員が意識をもって勝ち越すことが出来たが、2巡目は相手の対応に、自分たちが対応しきれなかった」と意識不足を反省点に挙げた。「今日の練習では、リバウンドやそれぞれの目標をもって取り組んだ」と徹底的に課題にフォーカスしていた。
最後の大会は残りわずかまでやって来る。今までやってきたことを出し切りながら頑張りたい。朗らかな雰囲気を持ちながら、勝負は、もうすぐ幕を開ける。(小山明香)

アスリート 支援 知性を養う スポーツ情報戦略 政策

フェンシング部 インカレ団体戦女子エペ3位



女子エペ団体戦 インカレにて
写真提供：専大スポーツ編集部

全日本学生フェンシング選手権大会が11月に開催され、専大は女子エペ団体戦で3位、男子エペ団体戦で5位に入賞した。
女子エペでは個人戦で3位となった吉田ひなた(人間科2・気仙沼)がチームを牽引。3位決定戦で関西インカレ覇者の中

京大と対戦すると、吉田が相手の猛攻を抑えて逃げ切り、見事に勝利を収めた。主力の齋藤華南(経済3・秋田商)を海外遠征で欠いたが、実力を見せつけた。男子エペは準決勝で中大と対戦。45対31で逃げ切れ、5位で大会を終えた。

『メダルを獲得したことにホッとした』アジア大会エペ団体 銅メダル 『全体を通して学びある大会』

第19回アジア競技大会の女子エペ団体戦で銅メダルを獲得した齋藤華南(経済3・秋田商)が川島記念特別功労賞を受賞した。受賞に際して齋藤は「今までこういった賞は貰ったことがなく、ちゃんと式に参加するのは初めてだったので、光栄」と話した。団体銅メダルを獲得したアジア大会については「メダルを獲得したことにホッとした。全体を通して学びある大会だった」と振り返る。
世界選手権やワールドカップ、ワールドユニバーシティゲームズなど数多くの大会に参加した齋藤は「毎回新しい課題や直さなければいけないところが出た。でも、その度に成長を感じられて良かった」とタイトなスケジュールの中、確かな手ごたえを得た。最近では「相手の動きを見逃さず合わせて練習を積む。年内にもワールドカップが控えており、「試合の結果よりも自分が成長した」と実感できるような試合にしていきたい」と今後の決意を語った。(竹田一爽)



川島記念特別功労賞授賞式で挨拶をする齋藤
写真提供：専大スポーツ編集部

齋藤華南

講道館杯 7位入賞!

【柔道部】
2023年度講道館杯全日本柔道団体重別選手権大会 千葉ポートアリーナ(11月5日)
日本柔道最高峰の大会で知られる講道館杯で、鎌倉啓太郎(経営1・習志野)が73キロ級の7位に入賞した。大舞台を控えた2日ほど前に熱を出し、絶好調には程遠かったものの高成績を取った。さすがは専大自慢のルーキーだ。今年6月、チェコで開催された国際大会でチャンピオンに輝いた実力者。コンディション不足にもかかわらず大舞台で力を見せつけた。
2回戦で激突した大賢選手(SBC湘南美容クリニック)は、昨年度の大会チャンピオン。今大会から取り入れた



写真提供：専大スポーツ編集部

下から潜るような組手」で敵の右腕をガツリ掴むと勢よく背負い投げした。直後、腰元でほんの小さく手を叩き、手応えを見せた。
5位決定戦では前回大会でやられた田中裕大選手(国士大4年)との対戦。実は、同じ小学校出身という関係の二人「やるしかない」としどろしどろ戦った。が、延長40秒を過ぎた頃、綱引き状態になった。途端に足車で右膝を崩され、リベンジならず。
試合を終えた鎌倉は終始、口惜しい様子だった。振り返るように言い放った。最後は、吹っ切れた顔つきで「まだまだこれからは、優勝したいですね」と今後の目標をこぼした。
ルーキーは、また立ち上がる。タイトル制覇へ向けた若大将の試みが始まりを迎える。(小山明香)

新主将直撃!

2023年に創部100周年を迎えた専修大学剣道部。そんな101年目のスタートを切る剣道部の新キャプテンは守安祥輝(商3・福大天濠)だ。高校時代には、全国大会と同レベルと言われる九州大会では団体2位という輝かしい結果を残した。また、今年行われた関東学生剣道大会では16年振りのベスト4という成績を取った。専修大学剣道部は、公式戦において後一步のところで敗退していることがほとんど。そこを改善するべく今後の稽古では「基本を徹底的に磨いていく」と意気込んだ。(林壮人)



撮影：西原和哉

専修大に学生スクールバスがあった 1951年から12年半、触法理由に廃止
障がい児自立 スローステップで 「大変は大変だけど、普通なんじゃないかな」
給食なかった横浜 温かい昼ごはん実現求め デリバリー式で導入に「結論ありき」と市民
LGBTQ留学生「日本の大学 多様性感じず」 英は「特別扱いもう不要」 専大、対応強化
増え続ける河川ゴミと闘う若者 団体名は「一掃計画」
未来変える「マイ争点」 若年層の低投票率に主権者教育
吃音 隠さない世の中へ 成人100人に1人 多くの人が知り、支えて
「母から聞いた大戦の話と重なった」 専修大ジャーナリズム学科澤ゼミ生メディア ウクライナ避難民支援 自ら提案した学長
ゼミ生は学生記者である。 問題を探り、人に会い、記事を書く。

競技が生きがいの者アスリートの奮闘 専大鈴木さん デフテニス世界大会3メダル
専大留学生 日本国内就職に困難 日本語力重視に不安 ビザ期限の圧力
「撮影罪」盗撮防止に期待、懸念も 競技「関係者以外撮影禁止」には困惑
子育ての悩み、気軽にSOSを 地域のつながり「子育てヘルパー」
図書館職員非正規76% 館数増、正規職減 「無料貸本屋ではない」 価値訴え
歩行禁止1年で効果戻るも影響大 エスカレーター条例 専門家「評価は数字だけでない」
キッチンカー悩ますエネルギー問題 プロパン取り扱い減少
専修大学ジャーナリズム学科澤ゼミ生メディア
VIRIDIS viridisonline.org

運転免許 2021年・2022年 東京都内 年間三利用者数 2年連続 NO.1
あなたの部屋と教習所がつながる。 オンライン学科
Pikku 専修大生だけの プランもありお得! 夢の実現を 全力サポート!
Sanwa Group 0120-15-6343
専修大学購買会提携 自動車教習所 武蔵境自動車教習所 東京車人 検索

31ヤードのTDランに成功!

【1部残留へ】
 1部リーグBIG8 1次リーグ第2節10月22日
 アミノバイタルフィールド専大18対13(国士館大)

わずか5点の差で逃げ切った。勝利を手にした戦士たちは1次リーグAプロツクを2位で終え、2次上位リーグの切符を掴み取った。

秋晴れが心地よい屋頂、国士大との白星争いが始まった。第1Qを勢いよく攻め込んだ専大は、6番平賀正郎(経済2・横須賀学院)のランプレーで6点を先制する。軽快な足取りで大柄な敵を見事に交わしていった。

しかし、第2Q中盤、鈴木颯(法2・佼成学園)のパスが相手に渡り、インターセプトとなる。ここで流れは一変し、TDパスを取られて同点に。さらに、キックを決められ逆転されてしまう。

巻き返さる狙いを第3Q、後藤傑汰(法3・神奈川立舞岡)が見せる。相手の隙をついたランプレーで瞬間にフィールドサイを駆け抜けていった。31ヤードのTDランに成功。12得点にまで追い上げた。最後まで得点を追加し、最後まで得



点を死守して勝ち切った。ディフェンスに圧倒的信頼を寄せている渡辺卓史監督は、「止めてくれるだろうと信じて見ていた」と、第4Qの終盤を振り返った。次戦以降への気合も凄まじく、「これだけ勝ちたいかっていう気持ちと最後まで走り続ける気力、体力。この3つが揃えば、必ず結果が出てくる」と信じてやわらせず」と豪語した。(小山明香 写真も)

【結果速報】12月3日の最終戦で青学大と激突し、16対17で惜しくも惜敗。第4Q序盤に逆転を許してしまった。これにより2週間後に迫った入れ替え戦に出場する。



【2部昇格へ】
 元世界WBCバンタム級王者の山中慎介さん(平17商卒)や北京五輪に出場した川内将嗣さん(平20商卒)を輩出した伝統ある専大ボクシング部。

この日の練習にはバリエーションを決めた原田周大(法4・豊国学園)ら9人が参加した。ロープを使った練習から開始する中、シャドーボクシングやタッチボクシング、ミット打ちをこなしている。

原田は「部内でレベル差はある」と話す。全員が熱心に取り組む。タッチボクシングの場面では、原田が後輩的に確かなアドバイスを送る姿も見られた。

まずは、部として個々が日頃の練習から切磋琢磨し、目標とするリーグ戦2部昇格を目指す。パリ五輪が来年に控える中、名門ボクシング部の躍進に期待がかかる。(竹田一爽)



(レイアウト早瀬)

陸上競技部 第100回箱根駅伝 出場ならず

【再び箱根の舞台へ】
 専大は4年連続の箱根駅伝出場を目指して予選会に臨んだが、総合18位で出場を逃した。3年連続最下位に沈んだ本選でのリベンジを誓う中、予選会直前に相次いで主力が離脱。昨年よりタイムを縮めながらも、ハイペースなレース展開に太刀打ちできず、本選出場は叶わなかった。

しかし、失意の結果に終わった中でも成長著しい2年生が躍動。チーム内順位ではトップのダンカン・キサイサ(経営3・大分東明)に続き、新井友裕(文2・浦和実業)が2位、薬科健斗(経営2・横浜)は3位にそれぞれ入った。明るい兆しを見せる次世代の主力にフォーカスし、来年度への意気込みを伺った。

新井友裕(文2・浦和実業)
 今年の箱根駅伝本選では当時1年生ながら4区を任された新井は予選落ちについて「悔しくてなかなか立ち上がれなかった」と話す。その中でも新井は自己記録となる63分38秒をマーク。大会前に目標としていた63分38秒を達成し、「思った以上に走れて、夏を越えて成長したと思う。それが結果に出て自信になった」と語った。

今年の夏合宿では足を痛めており、万全な状態ではなかったが、合宿後から徐々に調子を上げて自身初となる予選会のメンバー入りを果たした。昨年は絶対にも予選会のエントリーから漏れ、「今年は絶対に自分が走って箱根に連れていこう」という思いが強かった。予選会では、スタートから他校に負けないようにペースを落とさず、最後までフィニッシュ。

| 総合順位 | 18位 | 10時間44分51秒 |
|------|---------------------|------------|
| 22着 | ダンカン・キサイサ(経営3・大分東明) | 1:02'28" |
| 73着 | 新井友裕(文2・浦和実業) | 1:03'38" |
| 134着 | 薬科健斗(経営2・横浜) | 1:04'12" |
| 154着 | 大田和一斗(文3・東農大二) | 1:04'26" |
| 196着 | 辻優輝(経営3・洛南) | 1:04'45" |
| 197着 | 福田達也(経営2・市立橋) | 1:04'45" |
| 208着 | 大西裕翔(文1・京都外大西) | 1:04'51" |
| 221着 | 野下稜平(経済4・鳥栖工業) | 1:05'02" |
| 237着 | 手塚太一(経営2・那須拓陽) | 1:05'12" |
| 268着 | 山城弘武(経営4・コザ) | 1:05'32" |
| 299着 | 和田晴之(経営1・三浦学苑) | 1:05'50" |
| 366着 | 田島澁樹(経営4・学法石川) | 1:06'42" |

力学的に厳しい終盤でも治道の声援が力になった。「自分の中学、高校の同期が予選会突破に貢献していたので、一緒に走りたかった」と素直な気持ちを明かした新井。予選会後に再び足を負傷してしまい、現在は復帰に向けて治療中。

「来年こそは絶対に箱根へ行く」と強く決意。「他校のエース級と競える状態にすでに」という目標を掲げて来年度の予選会突破(既に歩みだしている)。

薬科健斗(経営2・横浜)
 今年の上半期から本格的に頭角を現し始めた薬科は、予選会を「悔しいのが第一。予定していた集団走が最初からできず、準備不足が露呈した」と振り返る。



ダンカン・キサイサ(中央) 薬科(左) 新井(右) 写真提供: 専大スポーツ編集部

【ゴルフ部】
 男子ゴルフ部主将、福住修選 女子の重田選手は、チームの手と女子ゴルフ部主将、重田英菜選手がチーム、そして個人についてインタビューに応じた。

はじめに、男子ゴルフ部は「今季のチームの最高成績は常陸宮杯第2回全日本学生ゴルフ選手権競技で4位に入ることができた。昨年より順位を上げることができたので良かった」と今季を振り返った。

さらに来季の意気込みとして「トップ3を目指し精進していきたい」とのこと。また福住は、日本学生で優勝することを個人目標とした。

女子の重田選手は、チームの今季について「春と秋のリーグ戦ではともに3位という結果だった。Bブロックでの優勝、そしてAブロックへの昇格ができた」と語った。

さらに「来季こそBブロックでの優勝、Aブロックへの昇格を目指します」と意気込んだ。重田は個人の目標として「全国大会に出場すること」と語った。

男女ともに、練習や試合で持ち味を最大限、発揮することを期待したい。(豊田琴乃)



主将の飯塚俊介(文4・桐蔭学園) (竹田一爽 写真も)

次世代の主力が魅せる圧巻の走り

【男子2部優勝逃す 2位で入替戦へ】
 (関東大学リーグ戦2部)11月26日 専大33対43(関東学院大) 関東大学ラグビーリーグ戦2部で6連勝中と絶好調な専大は、最終節で関東学院大と対戦。この試合で勝てば優勝が決まる条件で積極的な立ち上がりを見せると、専大が吉田温広(経営2・国学院栃木)のトライで先手を取る。その後も試合を優位に進めて21対17で後半へ。後半は徐々に相手ペースを握られると、逆転を許してしまう。専大は終了間際にもダメ押しとなるトライを喫し、つかみかけた優勝を逃した。

ショッキングな敗戦に宮坂航生(経営4・中部大春日丘)は「落としたくない試合を落とし、そしてイメージじゃない」と落胆。それでも、入替戦へ向けて「みんなやれることをやっつけて絶対に勝ちに行く」と前を向いた。1・2部入替戦の相手は1部7位の立正大となり、運命の一戦は12月16日に行われる。

コヤマドライビングスクールのイトコいろいろ!

- ★最短16日で卒業 *AT車でスケジュールどおりに教習が行われた場合
- ★インストラクターは全員マナー検定合格者 *NPO法人 自動車学校マナー推進協議会認定
- ★キャンセル料が無料。予約もキャンセルもネットでOK。
- ★ロビーで無料Wi-Fiが使える

小田急線、京王線、井の頭線など便利な無料送迎バス運行中!

Koyama Driving School SEIJO

男子卓球部

新主将インタビュー



新主将の野田颯太(文3・育英)

10月26日、28日にかけて開かれたインカレ個人戦(第89回全日本大学総合選手権大会)を終えて早稲田、新チームを率いるのは野田颯太(文3・育英)だ。

「主将決定の経緯については、去年から副主将としてチームの中心としてやってきたので、その流れで」と穏やかな雰囲気です。

「全体的にラリー戦は強い。しかし、全国大会だとラリー戦までいかないまま決着が付いてしまった」と早速課題を見つけていた。続けて「そこを鍛えられるよう、細かい技術のレベルアップするために練習メニューを考えていかなければいけないと思う。すでに、次戦に向けた対策に乗り出している。



「大会を全体的に振り返り、『勝負どころ』だなどというところで、みんな負けてしまった。強い選手同士で当たるところで勝った選手はいなかった」と反省した野田個人としてもベスト16止まりだったことを悔やんだ。

ダブルスでは準々決勝で福澤勇太(人間科3・社若)・星優真(文3・東山)ペアとの同校対決もあった。(星・福澤ペアは準優勝)

「強化部として団体で成績を残し、応援してもらった」とメッセージを残した。(小山明香写真)

●世界デフテニス選手権大会(今年大会では、目標としていた全種目のメダル獲得とはならなかったが、次に繋がる大会となった)と目標には届かなかったものの、次を見据えていた。今までの環境にはななかつたが、大会期間中に調整する力が高まった」と自身について振り返った一方、「海外の選手にも多種多様なボールを打つ自信となった」と鈴木の中でデフテニス、競技者としての成長を語った。

●部活動について 現在テニス部では、土日の練習と平日で授業の合間を縫い、週6日の練習を行う。鈴木は今秋から部員12人のテニス部チームの最高学年となり、副将として練習やトレーニングの面から率いてチームを引っ張っている存在である。練習中はコート内でも人一倍厳しく、時に同級生や後輩から「もう一つこまらねる」と見られる。鈴木にとってテニス部は「あくまで大学テニスよ活動への取り組み」という心構えが見えた。

●デフリンピックに向けて 鈴木は来年、学生テニスとしてラスティヤーを迎えるが、聴者大会で目標としているインカレ単複出場。そして、最大の目標である2025年東京デフリンピックでの活躍が大いに期待される。(小倉ひなた)



「自分のためにもチームのためにも楽しく」

「世界選手権日本代表へ」 今後はナショナルチーム入りを目指し、まずは来年1月の全日本選手権でベスト16進出を狙う。世界大会とインカレ制覇を新たな刺激を受けた出澤は「世界選手権の代表になれるように頑張りたい」とその目標を高々に宣言した。女子卓球部エースの今後に期待したい。(竹田一爽)

「結果速報」 第72回全日本相撲選手権大会 スフバット、ベスト16

12月3日に行われる全日本相撲選手権大会についてスフバットは、「目標はベスト4。できれば優勝を目指したい。一戦ずつしっかりと勝っていく」と意気込む。この日の練習では、後輩に積極的にアドバイスを送る場面が何度もあった。大切にしている後輩達について「頑張ってもらいたい。可愛がりすぎてサボり始めないか、ちょっと心配」と笑顔で話した。来年は最上級生となるスフバットは、「4年生は最後の年で、自分のためにもチームのためでもあるし、楽しいいきたい。Aクラスに上がりたい」と抱負を口に、角界入りを目指していく。(井上源太)

スフバット、ベスト16

スフバット、ベスト16

スフバット、ベスト16

スフバット、ベスト16

スフバット、ベスト16

女子卓球部エース 出澤杏佳 悲願のインカレ制覇

【サッカー部】 死力を尽くした90分 2部昇格ならず

今季から新設された関東大学リーグ3部を戦うサッカー部。一時は12チーム中9位に沈んだが、怒涛の6連勝を達成するなど見事に立て直し、4位でリーグ戦を終えた。



▲10番の村上はヴァンフォーレ甲府へ加入 ▲敗戦後の松村厳(法3・松商学園) ▲後半21分の失点シーン ▲勝ち越し弾を決めた情野

「自分のためにもチームのためにも楽しく」

スフバット 角界入りへ

スフバット、ベスト16

スフバット、ベスト16

11月19日(日)、専修大学生田キャンパスの総合体育館で今年度の「水球教室」が行われた。選手とのコミュニケーションで和やかな雰囲気の中、教室は始まった。準備体操から始まり、水に慣れるためのバタ足や泳ぎ、ボールに触れながら泳ぐ練習、シュートの決め方、片手でボールをキャッチする練習、泳いでシュートの練習など、選手がお手本を見せ、盛り上げながら和気あいあいとしていた。

十年ほど前から行われている「ONE DAY TEAMMATE」。コロナウイルスの流行で2020、2021年と行うことができなかった、このイベントは、去年から再開された。専修大学では他にもさまざまな部活が教室を開いていて、今年度は剣道部、水泳部(競泳・水球)、合気道部、空手部が教室を開催。

この催しは「楽しみながら、大学生のパワー・スピード・テクニックを体感しよう!」という趣向で、子供たちにスポーツにふれあう機会を作り、楽しさを味わうとともに、大学のスポーツについても興味を持ってもらうための活動となっている。最後は本格的な試合を行った。選手たちの迫力のある動きやパス、シュートはもちろんのこと、選手に支えられながら、何度も



撮影 竹田一爽



↑準備体操をこなして参加生徒は泳ぎから慣れていった。



(豊田琴乃)



水球教室

ONE DAY TEAMMATE 2023

楽しみながら、

大学生のパワー・スピード・テクニックを体感しよう!

↑水球教室の様子はこちらを
読み取ると
ご覧になれます!!

第18回 専修大学体育会地域貢献活動

11月19日(日)
総合体育館 プール



【カヌー部】
第59回全日本学生カヌースプリント選手権大会カヤックシングル2000m優勝
齋藤慎太郎(経済4・寒河江)



【ローラースケート部】
第65回全日本学生ローラースケート選手権大会ホッケー部門
男子3位入賞

体育会 激闘の記録



【アーチェリー部】
第35回全日本学生フィールドアーチェリー選手権大会3位
高見朋夏(経済4・足立新田)



【ローラースケート部】
第65回全日本学生ローラースケート選手権大会ホッケー部門
女子準優勝

専修大学

生田キャンパス
神田キャンパスの皆様へ

専修大学購買会提携業者の不動産会社 **ミニミニ** が、ひとり暮らしを始める専修大学生の皆様のお部屋探しを全力でサポートします!

11月17日・12月29日

早くお部屋を探したい!でも入居はもう少し先...そんな新入生の悩みを解消します。

無駄な家賃がかからないお部屋探し...それが早得キャンペーン学生住まいのプランです。早得キャンペーン学生住まいのプランの物件は、現在空いているお部屋を今すぐに契約しても最大3月31日まで家賃発生いたしません。

スマホで、パソコンでお部屋が見つかる!
専修大学専用お部屋探しページ

専修大学専用のお部屋探しページなら、キャンパスごとにお部屋探しをすることが出来て便利です!

最寄り路線から探す | 地域・区で探す
周辺環境情報 | カンタンお問合せ



神田キャンパス担当店

ミニミニ飯田橋店 専修大学 神田キャンパスのお部屋探しはおまかせ下さい

株式会社ミニミニ 東 102-0071 東京都千代田区富士見2丁目9-6 ☎03-3269-1532
営業時間 10:00~18:00 ■宅建番号 国土交通大臣(5)第6271号

生田キャンパス担当店

ミニミニ向ヶ丘遊園店 専修大学 生田キャンパスのお部屋探しはおまかせ下さい

株式会社ミニミニ 神奈川 102-0071 神奈川県川崎市多摩区登戸2719モリビル1F ☎044-911-3332
営業時間 10:00~18:00 ■宅建番号 国土交通大臣(3)第8434号

(レイアウト竹田)

西館昂汰特別インタビュー



〈特別インタビュー 専修大学5号館1階スポーツ研究所＝11月22日〉

ヤクルトとの仮契約を終えた翌々日。
西館がインタビューに応じてくれた。

－同学年の存在－

「めちゃくちゃ強いと思います」「東都1部で活躍しているドラフト1位で選ばれた選手には負けたくないなって気持ちです」。
対抗心を滾らせた。「代表合宿と一緒に練習した選手なんて見ていたらそうですね」。
「近くにいる存在には負けたくない気持ちになります」。
間近で目にした同級生の姿。そこに意識は芽生えていた。

－菊地さんの言葉－

進歩の裏には、前エース菊地史哉投手（現・千葉ロッテマリーンズ）のアドバイスもあった。「野球が楽しくないと成長できないという風に言っていた」。「確かに楽しくないとスキルアップしませんし成長もしないと思うので、自分が楽しめたら成長できるのかなって思います」。
当時に思いを巡らせていた。「正直、その時（3年次）はあまりピンと来る話ではなかったんですけど、この1年間投げて来てこういうことだったのかなって、ちょっとずつ理解できるようになったと思います」。やっと分かり始めた感覚を、ふと嘸み締めた。

－開幕一軍－

目先の抱負も話していた。「開幕一軍は、すごい目標にしていますね」「まずは自分がどのくらいの実力が知りたいなって思います」。更なる高みを目指すため自身を知る機会にもしたいようだ。そのほかにも「僕は抑えるっていうのはスピードだけじゃないと思うんですけど、やるからにはピッチャーのロマンである160キロは出したいなって気持ちです」。
ゆくゆくは球速も大台に乗せるつもりでいる。

春からエースは#14を背負う。今シーズンまで高梨裕稔投手が身に着けていた番号だ。ベテラン投手の後を継ぐ、大型右腕、西館の今後に注目だ。

西館昂汰（にしだてこうた）

- ・2011年6月9日生まれ
- ・福岡県筑紫野市出身
- 高校：筑陽学園
- 【大学成績】
- リーグ通算：36試合11勝6敗
- 防御率：1.69
- ・1年次秋にデビューを飾る。
- ・3年次秋にはチームの2部優勝に貢献し、同時に東都2部リーグ最優秀投手賞を受賞。今季は、ベストナインを受賞した。

写真提供：相川直輝さん（文4）



写真提供：相川直輝さん（文4）

がんばれ、専修大学！



東日本住宅(株)

創業50年の信頼と首都圏36店舗のネットワーク
東京・神奈川・千葉・埼玉の不動産売買・賃貸なら東日本住宅
代表取締役

桃野直樹

(第14代専修大学校友会会長)



webサイト

「自分の可能性を信じる」 専修Jスポ

プロの舞台へ!

関連記事7面に掲載



▲最速152キロのストレート・スライダーが魅力



記念撮影の様子
(左) 佐々木学長、(右) 齋藤監督

西館 昂汰 ドラフト

＜2023年度プロ野球ドラフト会議＞
専修大学生田キャンパス9号館アトリウム=10月26日(木)
東京ヤクルトスワローズドラフト1位 西館昂汰
撮影 相川直輝さん(文4)



藤沢高等自動車学校

FUJISAWA DRIVING SCHOOL

西館昂汰&甲斐優斗

サインプレゼント企画!!

締切: 2024年

1月23日まで



←こちらのQRコードを読み取りフォームからお申込みください



←雄たけびをあげる西館



←指名後、胴上げの瞬間



提供 専大スポーツ編集部

4年間ともに戦い続けてきた齋藤正直監督は、指名直後「西館おめでとうございませう」と穏やかな顔つきで称えていた。「滅多に褒めないんですけど、ドラフト1位で選ばれたことは本人の頑張りで思っています」とめいっばい褒め上げた。「彼の持ち味は、スタミナと馬力、ヤクルトの一員としてのシーズンから活躍してくれるのではないかと思います。最大限の評価をして「西館がんばれ!」と送り出した。

(小山明香)

激動の4年間を巻き戻していた。「1、2年生の頃は結果が出なくて、迷いながらやることもあった」「キッカケがあつて、こうしてプロ野球選手になることができた」と苦悩した時期を思い返した。それから「本当にしんどい時はいっぱいあるけれど、絶対に変わるキッカケはある。キツイこともあると思うが頑張っで欲しいと思います」と新チーム「ホームメッツ」を贈った。何度も口にした『キッカケ』の文字、「できるか出さないかではなく、自分の可能性を信じるのが変わったキッカケ」。夢を掴んだエースの言葉は何より力強かった。

運命の日。一人の専大生が夢を叶えた瞬間だった。「西館昂汰投手(経済4・筑陽学園)が東京ヤクルトスワローズからドラフト1位指名を受けた。昨年、千葉ロッテマリーンズに入団した菊地吏玖投手(令5経営卒)に続き、専大から2年連続のドラフト投手が誕生した。」プロ野球がシーズンを終えた頃、ドラフト会議が始まった。指名一巡、1度目の入札が過ぎ、重々しい静けさで迎えた2回目。画面越しからその名が響いた。「東京ヤクルトスワローズ、西館昂汰、専修大学」。会場がドツと湧き上がる。西館は、驚いた表情を見せながら暗れやかな笑みを零した。「嬉しいというよりホッとした。内心、第一声だった。昨日の夜から眠れず、不安な気持ちがあった」「(東都)2部のチームでやってきて実績があるわけではない。スワローズさんには感謝の気持ちでいっぱいです。安心した心境は、落ちていた口ぶりに表れていた。

運命の日

GO SENSHU!

専修大学購買会



横断幕 チームウェア制作



スポーツ 応援グッズ販売



神田キャンパス店 (1号館地下1階) TEL:03-3262-5759/FAX:03-3262-5813

生田キャンパス店 (8号館5階) TEL:044-911-1097/FAX:044-932-7956

レイアウト竹田